子どもたちの心に響く道徳教材
―道徳番組の活用を通して―

指導主事　中　村　典　史
Nakamura Norihumi

要　　旨

道徳教育における教材は多種多様であり、数多く作成され活用されている。

道徳資料として活用の多い視聴覚教材、特に奈良県立教育研究所で制作している道徳番組の授業での活用方法と課題について考察する。

キーワード：　視聴覚教材、心に響く道徳教材、道徳番組

１　はじめに

児童にかかわる昨今の悲惨な事件からも、「心の教育」を推し進めていくことが急務であると考える。学習指導要領においても、子どもたちが人間としての在り方を自覚し、人生をよりよく生きるために、その基盤となる道徳性を育成する「心に響く道徳教育の推進」がうたわれている。

ここ数年、各教科・領域等において様々なメディアを活用した教材が増え、授業形態も変化しつつある。道徳の授業で使われる資料としては、読み物資料が多いが、視聴覚教材の活用も増えてきている。

そこで、奈良県立教育研究所において制作している、小学校道徳番組「笑顔いっぱい」の活用の方途について考察したい。

２　研究目的

道徳資料の一つである視聴覚教材、小学校道徳番組「笑顔いっぱい」の道徳の授業での活用について研究する。

３　研究内容

(1)　道徳の時間における資料活用の現状

平成15年度に文部科学省が実施した道徳教育推進状況調査において、「道徳の時間の指導に学校として重点をおいて取り組んでいること」の結果は【図１】のようになっている。このうち、「教材の分析、魅力ある教材の選定及び開発・活用等の工夫」が小学校、中学校とも半数を超えている。このことから、道徳の時間に「魅力ある教材」、すなわち子どもの心に響く教材を使って指導している学校が多いと考えられる。

また、「道徳の時間の指導に使用する教材」の調査結果をみると、【図２】のように全児童生徒に配布されている「心のノート」が小学校、中学校とも最も多い。また、テレビ放送やビデオなど「映像コンテンツ」の活用が、小学校では66.8%、中学校では66.3%となっており、視聴覚教

材も多く活用されていることが分かる。

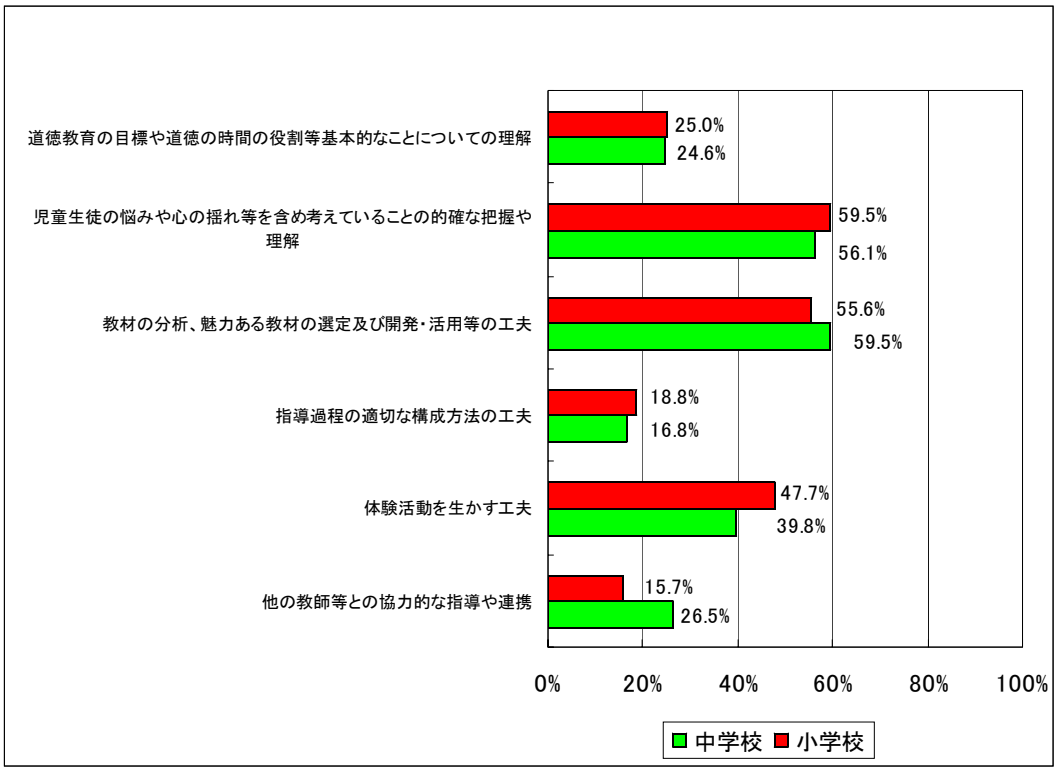

図１　道徳の時間の指導を一層充実させるために学校として重点をおいて取り組んでいること

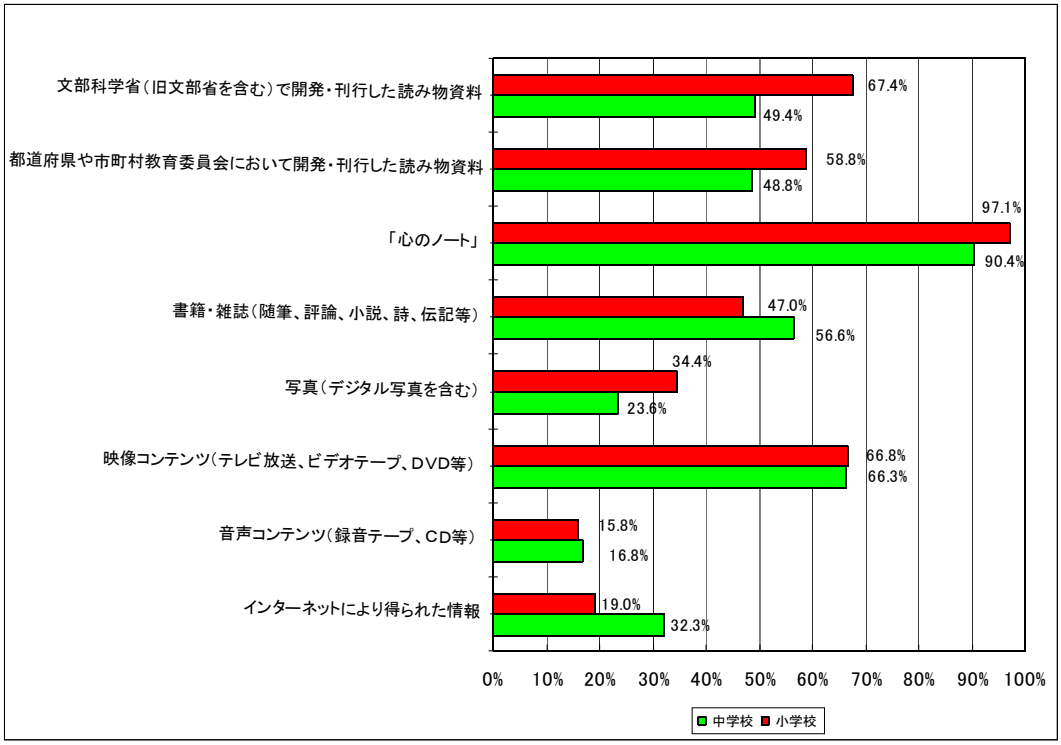

図２　道徳の時間の指導に使用する教材

(2)　道徳番組の制作

当教育研究所においては、平成７年度から、児童の道徳的心情を豊かにし、道徳的判断力を高め、道徳的実践意欲と態度の向上を図るために、小学校道徳番組「笑顔いっぱい」を制作している。小学校の児童が視聴して分かりやすい番組にすることと、子どもたちの心に響く教材になることを念頭におき、ドラマ構成の番組としている。

表１　平成16年度に制作した小学校道徳番組

題　　名	制　　作　　意　　図
ともだち （低学年）	よい友だち関係を築くには、互いを認め合い、学習活動や生活の様々な場面を通して助け合い、理解し合い、信頼感や友情を育てることが大切である。そこで、身近にいる友だちと仲良く活動し、助け合って行動しようとする態度を育てることをねらいとして制作した。 【小学校学習指導要領「道徳」１・２年　２－（３）】
大切な命 （中学年）	自分の誕生や生育の過程、病気やけがをしたときの様子などを思い浮かべることから、自分の命の尊さを知り、同様に命あるものすべてを大切にしようとする心を育てることをねらいとして制作した。 【小学校学習指導要領「道徳」３・４年　３－（２）】
あかんことは、アカン （高学年）	小学校高学年になると、友だち関係のなかで悪いことだと思っても友だちになかなか言えなかったり、自分自身いけないことだと思いながらも行動してしまったりすることがある。そこで、明るい心でみんなと共に楽しい生活ができるよう、正しいこと、間違っていることを自分で判断し、行動に移そうとする態度を育てることをねらいとして制作した。 【小学校学習指導要領「道徳」５・６年　１－（４）】

４　道徳の授業における番組の活用

制作した道徳番組は、ビデオ教材テキストとともに県内すべての小学校に配布し、それぞれの学校で活用していただいている。また、「道徳番組を活用した授業研修会」を昨年度から実施し、本教材を活用した指導法の工夫について研修を深めている。

次に挙げるのは、王寺町立王寺小学校で平成17年６月30日に行われた５年生の授業研修会で、中学年の番組「大切な命」を活用した授業である。

〔道徳学習指導案〕

○主題名　　生きているってすばらしい

○ねらい

自分の生命は多くの人に支えられていることに気付き、感謝の気持ちをもつとともに、その生命を大切に精いっぱい生きていこうとする心情を高める。

○展開

	学習活動	主な発問	教師の支援	資料
導入	1．「生きている」と感じるのはどんなときか考える。	○「生きているなあ」と感じるのはどんなときですか。	・本時は、「生きていることはどんなことかをみんなで考えよう。」という課題で学習を進めることを意識付ける。	
展開	2．ＶＴＲ「大切な命」を視聴し、話し合う。	○登場人物は、主人公の真美、友だちの千里と美代子、真美の母、妊婦の谷本さんほかです。 ○心に残ったところはどんなところですか。 ○入院することになった真美は、どんなことを思ったでしょう。 ○入院中に聞いたお母さんや妊婦さん、医師の話から、真美はどんなことに気付いていったでしょう。	・話の内容を理解できているか、場面を振り返りながら確かめる。 ・自分の経験も思い起こすことによって、旅行に行けなくなった真美の気持ちに共感できるようにする。 ・場面絵を使って、そのときの真美の気持ちを考えやすいようにする。 ・自分の命は、自分一人のものではなく、多くの人に支えられ守られてきたことを理解できるようにする。	登場人物の絵 場面絵
	3．自分を振り返る。	○自分も守られ支えられていると感じたことがありますか。 ○自分の命をもっと大切にするために、どんなことができるでしょう。	・そのときの気持ちについても触れるようにする。 ・一人一人の、よりよく生きようとする気持ちを認め合えるようにする。	ワークシート
終末	4．担任の話を聞く。		・まわりの人の支えに感謝し、精いっぱい生きようとする気持ちを高められるようにする。	

本教材「大切な命」は、中学年の児童を対象に制作した番組であるが、自分の命は多くの人に支えられていることを理解するとともに、支えられている命を大切に精いっぱい生きていこうとする心情を高めることをねらいとして視聴するには、５年生になったばかりの児童にもふさわしい番組であると考えられる。

授業では、視聴する前に、【図３】のような登場人物をプリントアウトしたペープサートを掲示した。

図３　　登場人物のペープサート

このことによって、児童は、どんな人物が登場するのか、それぞれの人物の関係がどうなっているのかが事前に理解でき、自然に物語に入ることができたようである。ドラマ形式であり、児童の日常生活の中で起こりうる内容を考慮して制作しているので、どの児童も真剣に視聴していた。

視聴後、それぞれの場面を振り返りながらの学習であったため、入院した真美の気持ちを考える活動では、「入院したことで家族に迷惑をかけた。」、「友だちがいたから事故に遭ってはずかしい。」など、自分の経験と重ね合わせた意見が多数出た。入院中に母や医者、妊婦から話を聞いた真美が気付いたことについて話し合ったときには、「自分の命は自分だけのものではなく、自分と関係のある人のものでもある。」、「自分の命は、たくさんの人に守られていることに気付いた。だからもっと命を大切にしていきたい。」など、ねらいにせまる意見が発表された。

授業の導入で、「生きている」と感じることを話し合ったことにより、児童が「命の大切さ」を意識して番組を視聴できたと考えられる。授業を通して、子どもたちは、「安全な生活をして命を大切にしていく」、「自分だけでなく、まわりの人も大切にしていく」など、命を大切にしていくことについて真剣に考えられるようになった。

５　研究結果と考察

本授業では、番組の最初から最後まで通して視聴したが、登場人物のペープサートを掲示することで、児童は番組の内容を十分振り返り、その時々の人物の気持ちを考えることができた。また、ポイントとなる場面での適切な発問により、授業のねらいにせまることができたのではないだろうか。こうした授業を展開するためには、事前に番組内容を十分検討し、どの場面でどのような発問をするかを指導者がしっかりつかんでおかなければならない。その上で、番組全体を通して視聴させるか、部分的に視聴にさせるかということを考えることにより、番組のより効果的な活用ができると考える。

６　今後の課題

授業研修会の研究協議では、低学年の番組「みんながつかうから」の活用事例として、「最初の３分間を導入とし、次の７分間で児童に考えさせ、後の５分間は視聴しなかった。まとめの部分を視聴していない方が反応がよかった。」という報告があった。今後は、より多くの教員に道徳番組を活用していただけるよう、番組を活用した事例研修会を開催するなどの方策を考えていきたい。また、番組を制作するに当たっては、道徳の授業での効果的な活用方法を念頭において制作しているが、更に活用しやすい「心に響く道徳教材」を目指して番組制作に取り組みたいと考える。

参考文献

(1)　平成15年度道徳教育推進状況調査の結果　　文部科学省　H15
(2)　「確かな学力」と「豊かな心」を子どもたちにはぐくむために　　文部科学省　H15